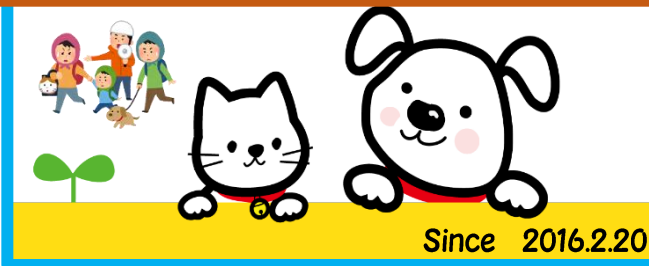


## ペットとぼうさい情報 No5



ホームページアドレス QR コードです↓



<http://www.geocities.jp/pettobousai2016/>

災害時、家族の一員であるペットは  
どうなるの？大地震で家が壊れたら、  
一緒に避難所に逃げられるの  
かしら？

こんな疑問を持った仲間が集まり、イザ！という時にペットと同行避難ができるように、ペットと飼い主さんの日常の備えの啓発活動や、災害時のペット同行避難所の設置を目指し、栗平・白鳥地域を拠点に活動をしているボランティアサークルです。

(現在 メンバー8名)

日本経済新聞 2017年5月11日付朝刊より抜粋

### 🐶 犬のしつけ教室で学んだ 「共生社会」に必要なこと 🐾

カナダ在住・マセソン美季さん

しつけ教室というのは、「待て」「お座り」のような指示をしっかりと聞き、身につける訓練をするためのもの、あるいは問題行動を防いだり、直したりするもの、とっていた。もちろんそういう練習もあるが、毎週出される宿題の中には、多種多様な人と触れ合うという項目があり、赤ちゃんから大人まで、様々な年齢の人と接するのもしつけの1つとされている。三輪車や自転車に乗る子どもや、ボール遊びをする子どもの近くを散歩する。また、松葉づえや歩行器、車椅子を使っている人とも出会うようにする。ヘルメットをかぶった人や、電動工具を使っている人にも慣れさせる。こうした課題もあった。何事も、小さい頃から見て慣れることが大切。その存在を知っているだけで、大きくなって知らないものに出会った時のパニックが減るそうだ。ほかには、手や腕の動きを使って合図をする方法も学んだ。人混みや大きな音がある場所で声の指示が通らない時や、遠く離れている時でも、大声を出さずにスマートに指示を出し、意思の疎通を図ることができるようになる。我が家ではこの練習をしてから、犬とのアイコンタクトが増えたと感じる。その様子を見ていた近所の人々が、「うちの犬に教えておけば、犬の耳が遠くなった時にとっても役に立ったのに」と残念そうに語っていた。防災について考える授業もあった。備えがあり、心構えができていれば、実際に地震などの災害が起きた時にも、自信を持って犬を落ち着かせられると感じることができた。

小さな頃からいろいろな人たちと出会い、さまざまなコミュニケーション能力を身につけておくことは、犬だけでなく私たちにも役立つこと。正しい褒め方や褒めるタイミング、「怒る」と「叱る」の違いなど非常に役立つ内容が満載だった。犬のしつけ教室で勉強しているのは実は犬ではなくて、飼い主の私たちである。

6月の定例会 ⇒ 6月3日(土) 午後3時から 栗平白鳥自治会館にて

※都合により、日程や場所が変更になることがあります。ホームページでご確認ください。